

都留高校 図書館通信

令和3年度5号

それは「サーブを打つ」ということ。

早9月となりました。みなさん、元気でしたか？
コロナウイルス、手強いですね。基本の感染症対策を徹底しましょう。



さて、冒頭の一行は、2年生の作った詩、『孤独』（「二十億光年の孤独」より）
「孤独であるということ
いま孤独であるということ」、に続く一節を拝借しました。

夏休み前半の猛暑の中、図書室で静かに自習する都留高生の姿がこの詩に重なりました。目標に向かって踏み出すとき、私たちは、たった一人で「サーブを打つ」という孤独に立ち向かわねばなりませんね。きっと届く、世界を変えると信じて…。秋色静中生、みなさんの孤独に寄り添う一冊が、再会の秋を待ちわびています。

★★★7月・8月の貸出冊数を報告します。

～いつでも読めるように、
いつも傍らに数冊の本を～

	1年次	2年次	3年次	定時制	合計	教職員
7月	158	79	87	6	330	131
8月	24	17	70	0	111	109
4月～	839	297	259	49	1444	617



あの戦争を知る

図書室で

8月13日、終戦の日の2日前、大月空襲により、都留高女・都留中の生徒を始め、多くの無辜の命が奪われました。この理不尽は、あの戦争とは、一体何だったのでしょか。戦後76年を迎え、戦争を知る世代が少なくなる今、語り継ごうとする人たちがいます。「戦争を知る@図書室」開催中です。

『不死身の特攻兵
軍神はなぜ上官に反抗したか』
鴻上尚史 講談社現代新書
(210/コ)

2016年、元特攻隊員の佐々木友次さんが92歳で亡くなった。佐々木さんは、9回出撃し上官に「必ず死んでこい」と言われながら、命令に背き、生還を果たし続けた。あの軍国主義の時代に、どうしてそんなことができたのだろう。命令よりも、「生きる」ことを貫き通した信念とは？『同調圧力』（講談社現代新書）の著者が、日本型組織に立ち向かう戦時の人々の姿に迫る。

小説版「不死身の特攻兵」の『青空に飛ぶ』（講談社文庫）は、帰国子女で日本に馴染めず、いじめの標的となってしまった現代の中学生が佐々木さんを知り…。

『世界でいちばん幸せな男
—101歳、アウシュビッツ生存者が語る美しい人生の見つけ方』
エディ・ジェイク著 金原瑞人訳
河出書房新社 (289/ジ)

ホロコーストの記録は辛くて読めないという人にこそ読んでほしい。「172338」と刻まれた左腕にこぼれる笑顔。エディが伝えたいのは、人間の愚かさや残酷さではない。体力、精神力、教育、そして友情。絶望の淵でも支えるものがあれば、人は立ち上がることができる。「生きてどうなる？明日も苦しむだけじゃないか」。収容所の有刺鉄線で感電死しようとするエディーをクルトは決して行かせなかった。「友情がなければ、人間は壊れてしまう。友人とは、生きていてくれることを実感させてくれる人だ。」

『立花隆 最後に語り伝えたいこと—大江健三郎との対話と長崎大学の講演』
立花隆 中央公論新社 (304/タ)

2015年、長崎大学で行った講演「被爆者なき時代に向けて」には、2つの意味があるという。「一つは、間もなく被爆を経験した人たちが物理的にこの世からいなくなる日が近づいているということ」。「もう一つは、二度と再びこの世界に被爆者を生み出さないようにするために、あなた方は何ができるか」という若い世代への問いかけだ。

今年、「昭和史の語り部」半藤一利さんが、そして立花隆さんが他界された。先人が私たちに伝えたいと切望したメッセージを受け止めたい。

◆◇お知らせ◆◇

図書室は通常通り、
10:15~18:00
開館しています。

*9月の休館日：
9/3 (金) 終日

*夏休み前に借りた本や
長期延滞本は、速やかに返却してください。

◆ おすすめの新刊

『日本全国 ゴミ清掃員とゴミのちょっといい話』 滝沢秀一 主婦の友社 (518/夕)

“ゴミ清掃芸人”で環境省広報大使の滝沢ちゃんが、全国の自治体や企業の先進事例を紹介。横浜市のごみ分別 AI イーオくんは人生を語ったりもするクールガイ。莫大なコストの焼却炉を設置せず「ゼロウェイスト宣言」し、リサイクル率驚異の81% (全国平均 19%) で海外視察も来るようになった徳島県上勝町、使用済みおむつを新品にするユニチャーム社の世界初水平リサイクル等々。全国平均 21.4 年でゴミ最終処分場は満杯になるという。怖い！喫緊の課題を滝沢ちゃんと共有！

こちらもおすすめ → 『プラスチック・フリー生活 今すぐできる小さな革命』

シャンタル・プラモンドン/ジェイ・シンハ著 服部雄一郎訳 NHK出版 (519/ブ)
日用品の8割を「脱プラ」する方法を、カナダ人夫妻が生活の場面毎に細かくガイドします！

『清少納言を求めて、フィンランドから京都へ』

ミア・カンキマキ著 末延弘子訳 草思社 (993/カ) …「セイ、あなたと私は驚くほど似ている。」

「セイ」って、清少納言のこと？ざ、斬新～！1000年前のセイに導かれ、仕事にも人生にもうんざりしたフィンランド人のミアが、'09年10月から1年間、セイを、そして人生を探す旅に出るエッセイ。京都、屋久島、ロンドン、タイ。ミアが語るミチナガやセイやムラサキのなんと艶めかしいことよ。ミア、あなたの“ものづくし”が私は大好き。千年の昔と今がつながったよ。

こちらもおすすめ → 『枕草子 新編日本古典文学全集 18』 松尾聡/永井和子 校注訳 小学館 (918/シ/18) ミアが書いているのはどの段かなと思ったら！年表や関係系図もあって◎

『闇を泳ぐ 全盲スイマー、自分を超越して世界に挑む。』 木村敬一 ミライカナイ (785/キ)

「僕が生きてきた闇の中は、僕が泳いできた闇の中は、温かくて、居心地がよくて、とても幸せな場所だということ。暗闇の中は、決して絶望にあふれてなんかいない。」—2歳で全盲となり、6歳から寮生活、12歳でたった一人上京、27歳で渡米。イアン・ソープに憧れ水泳を始め、水泳を武器に人生を切り拓いてきた、東京2020パラリンピック水泳代表の木村敬一さんが半生を綴る。

『フルーツポンチ村上健志の 俳句修行』 村上健志 春陽堂書店 (911.3/ム) …「句会」そういったものがあるのは知っていた —「テーブルに君の丸みのマスクかな」でお馴染みの著者が、歴史と伝統の会から个性的な会まで、様々な句会にお邪魔して様々なお題に挑戦。尻子玉俳句会のお題は「妄想」。河童や宇宙人が存在する前提で詠む。例えばこんな句「父に似てきた水掻きやオリオン座」笑

『ブラザーズ・ブラジャー』 佐原ひかり 河出書房新社 (913.6/サ) …「私はたぶん、願いすぎた。自分にも、他人にも。傷つけないから傷つけないでと」 —父悟くんの再婚で、新しい母瞳子さん、連れ子の弟晴彦と暮らすことになった高1のちぐさ。晴彦は美しいブラが好きで、身に着けてもいる。認めつつもりだったのに、ブラを手にした晴彦を友だちに見られ、とっさに「妹」と偽り晴彦を傷つけてしまった。後悔するちぐさは…。違和感を隠し、周囲に逆らわずに生きてきたちぐさの揺れ動く心情を、丁寧に解いて繊細に描く。キミの言葉にならない思いも、ここにあるかも。

『霧をはらう』 雫井脩介 幻冬舎 (913.6/シ) …2分25秒の霧をはらう！

病室の点滴にインスリンが混入され2人の少女が死亡する。逮捕されたのは生き残った少女の母。自白した母を許せず、無実を信じられない長女の由惟に、国選弁護人の伊豆原は言う。「刑事裁判って、国という大きな存在が個人を裁く、一方的な戦いだ。だから弁護士が味方になって霧を払い、一人の人間として見てもらうようにする」と。派手なトリックも一発逆転もない。真犯人さえ追いつめない。犯行が不可能だったと証明するため「一言」を積み重ね、「1秒」を手繰り寄せる。伊豆原の弁護士の信念が胸を打つ！！

話題の新刊もたくさん♪♪

長岡弘樹『教場X 刑事指導官・風間公親』小学館

知念美希人『硝子の塔の殺人』実業之日本社

今村昌弘『兇人邸の殺人』東京創元社

西尾維新『死物語 上・下』講談社、福岡伸一『生命海流』


朝日出版社、ヤマザキマリ『ムスコ物語』幻冬舎…etc.

この秋映画化の3作も！…山本幸久『マイ・ダディ』徳間文庫

四戸俊成/芹沢政信『神在月のこども』講談社文庫

荻上直子『川っぺりムコリッタ』講談社文庫

『象の皮膚』

佐藤厚志 新潮社 (913.6/サ)  イチオシ

幼い頃からアトピー性皮膚炎で「象のような皮膚」の凜。学校でも、家族からも、理解されなかった。今は非正規の書店員として、一癖ある同僚たちや、迷惑な客たちをさばき、「心を自動販売機にして」働いている。凜の日常は痒くて痛くてめんどくさい。でもそれだけじゃない。真面目で不真面目で可笑しくて自由でかっこいい。そう、凜の日常は私たちの日常だ。上半期No.1のイチオシ本です。次の芥川賞かな～。